

JAPAN MINIDAY 998 Challenge に出るために CSA 青木さんはこの CLUB CSA 998MINI 2号車スプリントスペシャルを製作した。しかもありがたいことに、まず最初にボクがこの大会で走ることを前提に作っていただいたのだ。だからボディカラーもボクの愛車と同じ赤だった。という訳で、マシン製作の段階から関わらせていただいた。アンダーコートを剥がしたり、ロールケージ、シートレール、ステアリングアジャスター、フットレスト等、主にインテリアの施工を担当。自ら好みのシートレールを用意したり、ドラポジにはこだわった。その甲斐あって自分にとって最高のセットができた。しかしながらマシンの完成は前日の29日。自らテストドライブすること無く本番を迎えた。

その前日、キャブセッティングに出かけて最終調整を行った青木さん曰く、1号車とは別物。余裕で21秒台が出せると豪語。筑波は好きなコースであるが、実はあまり得意でない。自分の車でも、CSA49号車でもいい成績を残せていない。青木さんの期待と裏腹に不安はよぎったが、早くそのマシンのポテンシャルを確かめたくて仕方のないボクは当日の予選前からうきうきしていた。あまりに緊張感が無いので青木さんもさらに不安になったかもしれない。で、迎えた予選。青木さんの指導は直前まで続く。「まあ、そんなに心配しなくてもなるようにしかないんだから・・・」と内心思いながらコースイン。一瞬にしてわかった。「スゲー、速い、コレ!!!」思わずにやけてしまった。もう、こうなったら攻めまくろう!と思い、ラップを重ねるもなかなかクリアラップが取れない。直前の車を抜こうにもそう簡単では無い。一旦下がろうかとも考えたが、直後にも同じようなラップを刻んでくる車がいる。そんなことをやってるうちに「えっ、もう終わり?」ってな感じで予選終了。このマシンのポテンシャルにしてP-LAPの最速ラップは22秒台だったから、「これじゃ青木さん納得いかねーだろーなー・・・」と思い、少し落胆して帰ってきたのであるが、迎えてくれた青木さんとCSAスタッフの皆さんは大喜びしている。何と予選6位で通過。しかも998チャレンジに初参加する関東勢ではトップだった。タイム差を見てもさらに夢は膨らむものだった。この時スタートには多少自信のあるボクは「最初の1コーナーで1台か2台は抜ける」と驕り高ぶっていた。マシンも絶好調で、たまたま前の車がうまいドライバーだったから、ついてゆく内に実力以上のタイムが出ていたに過ぎないというのに本人は至ってお気楽だ。しかしながらレースで走る者は誰しも優勝を夢見るものだからそれくらいは許していただきたい。

もはや勝ちに行く気満々のボクは昼飯も取らずに、本番を待った。コースインしてグリッドに付く。スタートまでの待ち時間、最も好きな時間である。もはやこの時は2、3台をかわして1コーナーを回っている自分を夢見ていた。シグナルが点灯・・・スタート!

「よっしゃー！ うまく出れた！」と思った瞬間、抜き去った車輛と接触。青木さんの「クラッシュは自腹ですから・・・」の言葉がよぎる。このスタートの最中にこんな事を考えている自分がおかしかった。でもダメージは無さそうなので、気を取り直して走る。気が付けば1コーナーを回りきった段階で3位に付けた。この段階で有頂天になったのは言うまでも無い。「これは、ひょっとしたらひょっとするぞ！」と天性のお調子者は思ったのであるが、さすがに相手は歴戦のツワモノばかり。そう安々と追いつかせてくれないどころか徐々に引き離してゆく。「そりゃそうだよな。世の中そんなに甘くは無いよな・・・」と思いつつも調子こいたついでに言い訳させてもらおうと、1コーナー、ヘアピンと旋回中に3000回転くらいまで下がった時に少しかぶり気味になり、どうしてもパワーが出ないのである。コーナーの直前までは素晴らしい感触で遅れを挽回できるも、立ち上がりが悪く無い。回転を落とさないよう半クラ使ったりいろいろやってみるがうまく行かない。で、とうとう後続に抜かれてしまった。抜かれてしまったからは少し冷静になってどうやったら追い上げられるか考えながら走ったのであるが、どうも解決策が見つからない。一方、前方では激しいトップ争いのバトルが繰り広げられていた。「オレもあれにからみてー！」と思ったが、さすがにこの段階になって自分の実力を思い知ったのである。ところが、終盤に近づいて1コーナーを回ってみるとトップ争いをしてきた1台がコースアウトして止まっている。「えっ、もしやこれで3位??？」「まさか、表彰台かぁ！」俄然、気を取り直し、直後に迫った後続にパスされるのだけは食い止めようと必死で走った。もうすぐ後ろに来ている。何とか抑えられるかな・・・と最終コーナーを回るとチェッカーが見えた。車の中で絶叫した。すぐにピットを見てガッツポーズを送る。夢見て走ったが、まさか表彰台に上れるとはさすがのお調子者でも心底は思っていなかったので、本当に嬉しかった。青木さんも喜んでヘッドを開けてくれるに違いない。と思った。3位まではレース終了後にヘッドを開けて車検を受けるのである。冗談で、入賞しそうになったらスピンしてくれ。と言われていたのだが、何の迷いもなくチェッカーを受けた。チームメンバーは大喜びしてくれた。ぶっつけ本番だったが、今まで1号車で色々と試してきたことを活かし、自分の思った通りにマシンを再現することができた青木さんはことさら嬉しかったに違いない。ラッキーもあったが、運も含め本当にうまくいったと思う。何せ、ワンメイクで車輛規定も厳しい大きな大会での表彰台である。あまり長くないレース歴の中で最良の一日となった。諦めずにその場にしっかりと居続けることはとても大切なことだと実感した。

素晴らしい車を作ってドライブさせてくれた青木さんには本当に頭が上がりません。ありがとうございました。チームを支えてくれた CSA 高橋さん、CSA

大江さん、テクニカルアドバイザーの大岩さんに感謝します。それと車輛づくりを手伝ってくれたインチキさん、たかさん、ありがとう。素晴らしい仲間達に乾杯！

さて、次は MINI JACK の 998 チャレンジだ。ドライバーは大岩さん。もう優勝しかありえん！ さらに CLUB CSA ( CSA 部活チーム ) の挑戦は続く・・・